

県指定・田中大秀墓



<http://digitalarchiveproject.jp/information/> 県指定・田中大秀墓



〈県指定〉昭和 31 年 2 月 24 日

〈管理者〉荏名古史跡保存会

〈所在地〉江名子町上使畑 2115 番地

〈時代〉江戸時代(19 世紀)

〈員数〉300 m²

墓(1 基)盛り土径 3.3m、高さ 1.9m

荏名(えな)神社から 1 km 南方に大きな松樹の生い茂る小丘がある。大秀が生前松室岡(まつむろおか)と名づけ、墓所と定めたところである。曲折した参道をのぼると、芳賀矢一撰文「田中翁贈位記念碑」の立つ広場に出る。3 段の石段をのぼり、切石道を進む。左右に春日燈籠 1 対を並べ、正面に大秀好みの、雅な標碑が立っている。「田中大秀之奥城」と刻まれた文字は、大秀の筆跡である。大秀の遺体は、標碑の後ろの小円墳に葬られている。

大秀は、安永 6 年(1777)8 月 15 日高山一之町薬種商弥兵衛博道の 2 男に生まれたが、兄休(よし)明(あきら)の夭折(ようせつ)(若死)により家督を相続した。初名紀文、栗田知周・伴蒿蹊(こうけい)・本居宣長等に師事し、家号を湯津(ゆつ)香木(かつら)園(ぞの)と名づけた。文化 15 年(1818)隠居の後、自ら再興した荏名神社の傍らに隠棲し、荏野(えな)翁と称して国学の研究と門弟の指導に専念した。弘化 4 年(1847)9 月 16 日没、享年 71、法号松室了郭居士。「養老美泉并註」「竹取翁物語解」「落窪物語解」「土佐日記解」「蜻蛉日記紀行解」「荏野冊子」等の著述がある。

参考文献

『高山の文化財』176～177 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年 3 月 31 日



001_01田中大秀墓案内板



002_02案内板



003_03円墳大秀墓を望む



004_04田中大秀奥城道の碑



005_05墓登り口



006_06屈折した石畳み道



007_07屈折した石畳み道



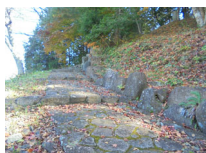
008_08屈折した石畳み道



009_09屈折した石畳み道



010_10屈折した石畳み道



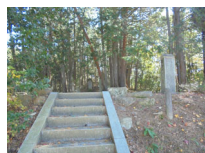
011_11屈折した石畳み道



012_12屈折した石畳み道



013_13屈折した石畳み道



014_14昇り階段から墓を見る



015_15田中大秀墓碑



016_16墓・春日燈籠一対



017_16墓正面全景



018_17墓正面全景



019_18墓正面全景



020_19墓正面



021_20墓左側面



022_21墓背面左側



023_22墓背面右側



024_23墓右側面



025_24墓右側面



026_25墓正面



027_26墓左側面



028_27墓左側面



029_28墓の右側燈籠



030_29墓の燈籠左側



031_30墓前階段3段



032_31墓手前左側碑



033_32墓手前左側碑



034_33墓手前左側碑



035_34境内



036_35境内左側から墓を見る



037_36境内右側から墓を見る



038_37昇り口右側の碑



039_38昇り口右側の碑



040_39昇り口右側の碑



041_40登り口から墓を見る



042_41上から下を見る



043_42碑の右側



044_43階段



045_44石畳み道を下る



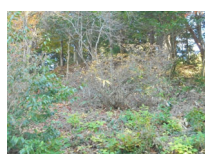
046_45円墳の上を見る



047_46道を下る



048_47道を下る



049_48下から上を見る



050_49下から上を見る



051_50道を下る



052_51昇り口から上を見る



053_52昇り口から上を見る



054_53昇り口から上を見る



055_54昇り口から上を見る



056_55円墳全景



057_落葉の田中大秀墓001



058_落葉の田中大秀墓002



059_落葉の田中大秀墓003



060_落葉の田中大秀墓004



061_落葉の田中大秀墓005



062_落葉の田中大秀墓006



063_落葉の田中大秀墓007



064_諏訪神社1



065_諏訪神社2